

産卵と死がい、捕食動物調査 20日報告会

ウヨロ川のサケは 100万匹単位でふ化

自 老

自老・ウヨロ川でサケの自然産卵と死がいを食べる動物などの調査をした自老のNPO法人ウヨロ環境トラスト(齋藤春生理事長)は、調査報告会を20日午後3時から町総合健康福祉センターで開催する。自然産卵した稚魚が百万単位の一ターにいることや、サケの死がいをキツネやタヌキ、オシロシなどが食べていることなどを専門家が報告する。

調査は日本財団などからの助成を受けて昨年10、12月の2回実施。産卵床の数

や自動撮影カメラを据え付けて野生動物による死がいの捕食状況などを調べた。一般向けのサケ上観覧会も10、11月に開催した。

この結果、自然産卵するサケの数が極めて多く、百万匹単位でふ化していることとサケの死がいをキツネ、タヌキ、アライグマ、リス、オシロシなどが食べていることが分かった。同NPOは「サケが地域の生態系の中で物質循環の役割を担っていることなどを専門家が分果たしてあり、ウヨロ川の自然の豊かさをあらためて認識した」と話している。

報告会は、調査に参加した自然ウォッチングセンター代表の島田明英さんが「ウヨロ川のサケ自然産卵の状況とホッチャシを利用する動物たちをテーマに札幌市豊平川さけ科学館の岡本康寿館長が「野生サケの保全について(仮題)」をテーマに発表する。参加は無料。

ウヨロ川は、胆振管内最高峰のホロホロ山を水源にしている総河川。中流部の支流にはサケマスふ化場があり、稚魚が放流されているが、多くの野生サケが毎年上り、自然産卵している。(富士雄志)



ウヨロ環境トラスト主催のサケ上観覧会
＝昨年11月、ウヨロ川

(第3種郵便物認可)